

特色ある放課後子供教室

～放課後を活用して子供の学力・体力向上を図る取組～

放課後子供教室は、平成19年度から始まり、5年目を迎えました。今、都内の放課後子供教室では、特色のある活動が様々取り組まれています。今回は、学校と連携しながら、放課後の時間を活用して、子供の「確かな学力」の定着と伸長を図る取組と子供の「体力向上」に向けた取組を行っている放課後子供教室を紹介します。

I 品川区「すまいるスクール鈴ヶ森」の「ぶんぶんクラブ」の取組 ～放課後の時間を活用した読み書き支援～

① 品川区「すまいるスクール」の概要

品川区「すまいるスクール」は、学校施設を活用し、放課後や土曜日、夏休みや冬休みなどに児童と一緒にのびのびと有益に過ごす、全児童に向けた放課後等対策事業です。品川区立小学校38校全ての小学校内にあり、小学1年生から6年生までの希望する児童が登録できます。「すまいるスクール」は、放課後等の活動を豊かにし、学力、体力及び個性の伸長を図るとともに豊かな人間関係を育みながら児童を健全に育成するところです。

② 「すまいるスクール鈴ヶ森」

実施場所	開催日数
個別学習室、グループ学習室、ブレイルーム、旧図書室、校庭、体育館	293日(平成22年度)
開催日時	
月曜日から土曜日までの学校がある日……放課後から午後5時まで(保護者が働いている場合などは、午後6時まで) 土曜日・夏休み・冬休み……午前9時から午後5時まで(保護者が働いている場合などは、午後6時まで)	
参加人数	
延べ24,707人(平成22年度)	
「すまいるスクール鈴ヶ森」を支えるスタッフ	
①指導員 8名 区の常勤職員1名、非常勤職員2名及び「NPO法人ふれしやすはーと」のスタッフが、放課後等「フリータイム」における校庭・体育館での児童の安全管理、「勉強会」での学習指導、「教室」の企画・運営等を行っています。 「NPO法人ふれしやすはーと」は、「すまいるスクール」の支援を目的に、教員免許を持った意欲のある地域の人たちで設立され、平成22年度から「すまいるスクール鈴ヶ森」の運営業務を受託しています。	②学習アドバイザー 約30名 スタッフの他に、保護者や地域の方が伝統文化やスポーツなどを中心に「教室」のプログラムを提案し、ボランティアとして「教室」の講師を担って子供たちに指導しています。

③ 放課後の時間を活用した読み書き支援 ～「ぶんぶんクラブ」の取組～

(1)「ぶんぶんクラブ」とは

「ぶんぶんクラブ」は、放課後に遊びながら楽しく読み書きの基礎になる力を育てることを目的に、平成23年4月から品川区教育委員会と東京学芸大学との共同研究の一環として「すまいるスクール鈴ヶ森」で始めました。

子供たちは、毎週火曜日に45分間、ゲーム形式で楽しく読み書きを学んでいます。

Q. ぶんぶんクラブって 何？

放課後、すまいるスクールの教室で言葉のゲームで遊びながら苦手なところ楽しくトレーニング、読み書きの基礎になる力を育てます。

Q. 具体的にはどんな事をするの？

●みんなで言葉・絵・文字・音記号などのカードを使って遊びながらトレーニング
「同じ仲間であつてごらん？」
「同じ仲間を1分間であつめよう」
「作文いつ書けたかな？」など

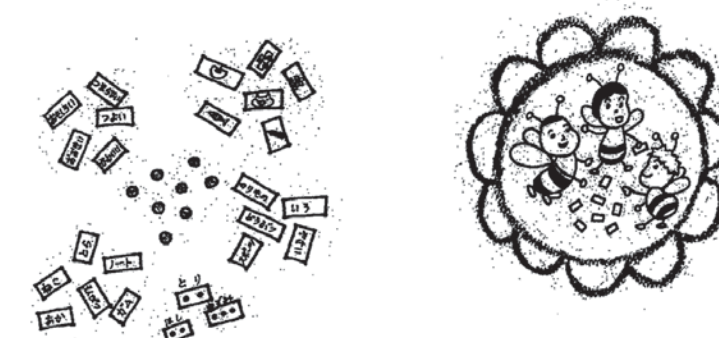
Q. どんな人が教えてくれるの？

「読み書き困難の支援」を研究、教材の開発に携わっている、東京学芸大学の教授、教育学博士、小池敬英先生の監督のもと、専門アドバイザーとすまいるスクールのスタッフで支援していきます。

Q. 読み書きが低学年で上手に出来なくても、成長すれば大丈夫なのでは？

高学年以降の学習につまずいている子どもの背景が近年の研究によって把握されてきています。読み書き・算数の弱さが、学習全般のつまずきになっていく可能性が高くなるという事がわかってきました。低学年のうち早めに苦手を捉え補助していく事で、学習意欲の低下を軽減させようというのがこのクラブのねらいです。

●すごろくゲーム、ピンゴゲームなど、課題に関連した楽しい教材で進めていきます。



パンフレット「ぶんぶんクラブ 読み書きの基礎を育てる」品川区教育委員会・NPO法人ふれしやすはーと

(2)ある日の「ぶんぶんクラブ」

「読み書き」の指導は、グループ活動のプログラムと個人学習のプログラムで行っています。個人学習では、パソコンのタブレットを使って子供がどれくらい漢字を理解しているか、覚えているかを確認しています。



「ぶんぶんクラブ」の個人学習



「ぶんぶんクラブ」の様子
「チームに分かれて、知っている言葉を時間内でできるだけ多く書いてみよう」

(3)品川区立鈴ヶ森小学校 太田 裕子校長のお話から



品川区立鈴ヶ森小学校 太田 裕子校長

児童が学校の授業で理解が足りない場合、家庭で学習することにより、学習の遅れを取り戻すことができます。

しかし、様々な理由で家庭において学習ができない場合もあり、必要な教育支援を行わないと基礎学力が育たないだけでなく学習に対する苦手意識を植え付けてしまいます。

そのような時に、放課後の時間を活用して、遊びを通して読み書きの基礎トレーニングをすることは、学習のつまずきや学習意欲の低下を防ぐことにもつながります。

「ぶんぶんクラブ」の取組により、児童が漢字に対する抵抗感が減り、積極的に学習に取り組むようになりました。